

10月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

今月のテーマ

インフルエンザ・予防接種のタイミング

1) **インフルエンザとは**：インフルエンザウイルス（A,B,C型）による気道感染症です。毎年北半球では1～2月頃、南半球では7～8月頃が流行のピークであり、熱帯、亜熱帯では雨季を中心にみられます。わが国では12月頃に始まり、1～3月に増加します。しかし、**冬の流行時にかかわらず、持ち込み、持ち出しがあるので注意が必要です。**

2) **臨床症状**：インフルエンザウイルスの感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが突然現われ、咳、鼻水などの上気道症状がこれに続き、約1週間ほどで軽快します。**小児では気管支炎、中耳炎、熱性けいれん、喘息の誘発などがあり、インフルエンザ脳炎、脳症など命に係わる重大な合併症もあります。**

3) **治療**：抗ウイルス薬として、NA（ノイラミターゼ）阻害剤：A型、B型双方に有効（吸入薬：リレンザ、イナビル、経口薬：タミフル、注射薬：ラピアクタ）、RNA（ポリメラーゼ阻害剤）：A、B型に有効（経口薬：アビガン）、エンドヌクレアーゼ阻害剤：（経口：ゾフラール）、があります。いずれにしても、**薬剤耐性や、吸入可能か、服薬可能か等の問題があり、かかりつけ医と相談し、使用の有無の判断をしましょう。**

4) **予防**：流行期には人込みを避ける。マスクの着用、手洗い、うがいを励行しましょう。

感染児は発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日（幼児では3日）を経過するまで出席停止とされています。病状により、学校医、その他の医師の指示を受けましょう。

***感染経路は3つあり**、患者の粘液が目、鼻、口から直接入る経路、患者の咳、くしゃみ、つば、吐き出し物により発生した飛沫を吸い込む経路、ウイルスの付着した物や、握手のような直接的な接触により、手を通じて口からウイルスが侵入する経路です。

部屋の換気、空気清浄機の使用、加湿（湿度50～60%）も良いでしょう。

***予防接種**：2015年からA型ウイルス2種類

（H1N1.H3N2）B型2種類の計4つの型のインフルエンザウイルスに対応します。しかし、A型はH（H1とかH3とかの赤血球凝集素）が変異しやすく亜型と呼ばれています。そのため、今年のワクチンはA型の2種類を昨年とかえました。

B型は不変です。11月から12月中頃までに接種を終わしましょう。幼児は、特に初めての摂取は2回で初期免疫が樹立しますので、多少接種間隔がずれても2回接種されたほうが良いでしょう。また、間隔は1～4週を開けてください。複数回の接種には決まりがありますので、かかりつけの先生とよく相談してください。

インフルエンザ対策は予防から

